

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F117310105460	設置等組織名	情報デザイン学部（経営情報学科、環境デザイン創成学科）、メディア情報学部（メディア情報学科、心理情報デザイン学科）、情報理工学部（情報工学科、知能情報システム学科、ロボティクス学科）
大学名	金沢工業大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	石川	事業計画名	金沢工業大学における社会実装型教育研究プロジェクトを文理探求から実践する情報専門人材の育成

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2 前倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請 又は届出	令和6年4月 情報デザイン学部、メディア情報学部、情報理工学部 学部の設置届出予定	令和6年4月 情報デザイン学部、メディア情報学部、情報理工学部 学部の設置届出 令和6年6月 情報デザイン学部、メディア情報学部、情報理工学部 学部の設置届出の受理		
フェーズ1 後倒し	2－① 令和7年3月 新築（新設 3 学部共通教育研究棟）工事を着工（18か月工期）	2－①令和7年3月 新築（新設 3 学部共通教育研究棟）工事の着工延期（令和6年1月に発生した能登半島地震の影響に伴い、令和7年7月に工事着工予定）	○年度自己評価	リストから選択してください。
			R6年度自己評価	【2】計画を十分には実施していない。 令和6年能登半島地震の影響について一定程度は織り込んでいたものの、設計関係者や施工業者の多くが被災地支援に従事したことにより人員確保が困難となり、基本設計に基づく実施設計のフェーズにも想定以上の時間を要した。この結果、当該新築工事の着工は当初計画より約4か月遅れ、それに伴い工事の完了時期も後倒しとなった。工事の安全確保、品質の維持、作業環境の整備等の観点から、計画上の工期短縮は困難と判断し、結果として事業の遅延は不可避との結論に至った。なお、建物の機能・規模・用途に変更はなく、完成時期は遅れるものの事業の目的達成に支障は生じない見込みである。引き続き、状況の変化に応じて、柔軟かつ的確に対応してまいりたい。
開設 又は定員増	令和7年4月 情報デザイン学部開設予定（入学定員 100人、工学関係） メディア情報学部開設予定（入学定員 200人、工学関係） 情報理工学部開設予定（入学定員 320人、工学関係）	令和7年4月 情報デザイン学部開設（入学定員 100人、工学関係） メディア情報学部開設（入学定員 200人、工学関係） 情報理工学部開設（入学定員 320人、工学関係）		
フェーズ2 後倒し	2－② 令和8年8月 新築（新設 3 学部共通教育研究棟）工事完成 2－③ 令和8年9月 新築（新設 3 学部共通教育研究棟）開設		○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3	3－① 令和7年4月 新設学部開設 3－② 令和7～10年 新設学部志願者・入学者確保のための広報活動		○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は 学部等の廃止	令和6年4月 工学部ロボティクス学科 学生募集停止の報告予定（入学定員100人、工学関係） 工学部情報工学科 学生募集停止の報告予定（入学定員200人、工学関係） 情報フロンティア学部メディア情報学科 学生募集停止の報告予定（入学定員120人、工学関係） 情報フロンティア学部経営情報学科 学生募集停止の報告予定（入学定員60人、工学関係） 情報フロンティア学部心理科学学科 学生募集停止の報告予定（入学定員60人、工学関係） 工学部機械工学科 80人減員予定 （学生募集停止の報告予定（入学定員200人、工学関係）、 学部の学科の設置届出予定（入学定員120人、工学関係）） 令和7年度 工学部ロボティクス学科 学生募集停止の予定（同上） 工学部情報学科 学生募集停止の予定（同上） 情報フロンティア学部メディア情報学科 学生募集停止の予定（同上） 情報フロンティア学部経営情報学科学 生募集停止の予定（同上） 情報フロンティア学部心理科学部学科 学生募集停止の予定（同上）	令和6年4月 工学部ロボティクス学科 学生募集停止の報告（入学定員100人、工学関係） 工学部情報工学科 学生募集停止の報告（入学定員200人、工学関係） 情報フロンティア学部メディア情報学科 学生募集停止の報告（入学定員120人、工学関係） 情報フロンティア学部経営情報学科 学生募集停止の報告（入学定員60人、工学関係） 情報フロンティア学部心理科学学科 学生募集停止の報告（入学定員60人、工学関係） 工学部機械工学科 80人減員 （学生募集停止の報告（入学定員200人、工学関係）、 学部の学科の設置届出（入学定員120人、工学関係）） 令和7年度 工学部ロボティクス学科 学生募集停止（同上） 工学部情報学科 学生募集停止（同上） 情報フロンティア学部メディア情報学科 学生募集停止（同上） 情報フロンティア学部経営情報学科 学生募集停止（同上） 情報フロンティア学部心理科学部学科 学生募集停止（同上）		

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	金沢工業大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。	令和7年度における情報系学部の入学定員充足率は、メディア情報学部および情報理工学部では定員を満たしている。一方、情報デザイン学部は充足率が0.79にとどまった。今後は、推薦系入試の比率を高めることで、幅広い資質を有する学生層の受入れを促進し、あわせて全国47都道府県の高等学校に本学職員が直接訪問する学生募集活動を強化することにより、全学部における定員の安定的な確保と、充足率のさらなる向上を図る計画である。				
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☐ チェック			
計画通りに進んでいる	☐ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。					
	<table><tr><td>計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック			
計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック					
⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。					
	<table><tr><td>認定を受けておらず申請する意向もない</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック			
認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	金沢工業大学
-------------	-------	-----	--------

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

- 【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）
- ☒ チェック a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
 - ☐ チェック b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
 - ☒ チェック c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
(a)申請する情報系3学部では、現在連携協定を締結している地域自治体（野々市市、金沢市、白山市、加賀市、小松市、珠洲市）や企業と連携した正課教育（プロジェクトデザイン教育：PDⅡ、PDⅢ）に現行と同様に取組む。企業とは「PDⅢ（一般的には学部卒業研究）」を通じた共同研究等を実施する。PBL教育の授業科目（2年次の必修科目「PDⅡ」）では、キャンパスが隣接する野々市市、金沢市から提供された地域課題に取り組み、最終成果報告会を現行運用と同様に市役所で実施する。更に今後は数理・データサイエンス・AI等の情報技術を有機的に組合せた新たな取組となるPBL教育を計画する。	(a)「プロジェクトデザインⅡ」（2年次必修科目）では、地域や企業など実社会の課題に対して、情報技術を活用した実データの分析とチームでの協働を通じて、実践的に課題解決に取り組み、数理・データサイエンス・AI等の知識を有機的に組み合わせたPBL教育として展開している。令和6年度には、野々市市および金沢市から提供された8つの地域課題に取り組み、最終成果報告会を実施した。「プロジェクトデザインⅢ」（学部卒業研究）では、企業との共同研究に通じた研究活動も実施しており、学生の実践的なスキル向上を図っている。大学と企業による共同プログラムにより、企業における実業務を通じて理論と実践を有機的に学ぶ「KITコーオプ教育プログラム」（選択科目）には、令和6年度に21社から30名の学生が参加した。11月にはNECソリューションイノベータ株式会社および西日本電信電話株式会社のプログラムに参加した学生による成果報告会を実施した。	
(c)新設する情報理工学部（情報工学科、知能情報システム学科の2学科）は、スクラップ&ビルドした工学部（情報工学科）を改組して設置する学部である。情報工学科は、学部4年次において大学院科目の履修を可能とする運用をしており、海外提携校のロチェスター工科大学(米国、RIT)との交換留学とデュアルディグリープログラム（大学院国際共同学位プログラム）を運用しており、令和4年度には国際共同学位修了生を輩出している。新設する学部学科においても、授業科目の英語化を進めることで、学部全体としてデュアルディグリープログラム（大学院国際共同学位プログラム）の計画を進める。	(c)新設する情報理工学部（情報工学科、知能情報システム学科、ロボティクス学科）では、学部4年次に大学院科目の履修が可能な運用を行っており、海外提携校であるロチェスター工科大学（米国、RIT）との交換留学およびデュアルディグリープログラム（大学院国際共同学位プログラム）を実施している。授業科目の英語化に向けた基盤整備として、全学部においてオンデマンド授業の整備を段階的に進めている。時間や場所を問わず柔軟に学べる環境の構築を目的とし、整備の進捗に応じて英語化を進め、留学生への教育にも活用していく計画である。オンデマンド授業については、完成年度までに全授業科目分を整備する予定である。	

- 【B：多様な入学者の確保に向けた取組】
- ☒ チェック a. 入学者選抜における科目の見直し
 - ☒ チェック b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
 - ☒ チェック c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
 - ☒ チェック d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）
 - ☒ チェック e. 留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
(a)文系・理系の併用型入試を実施するため、推薦試験（公募制）で「数学、英語の2科目必修の学力試験」から、「数学、英語、国語の3科目から2科目選択の基礎学力試験」を行う。	(a)令和7年度入学試験（推薦試験A〔公募制〕および一般試験A）では、文系・理系を問わず適切な人材を選抜するため、「数学・英語・国語の3科目から2科目を選択する基礎学力試験」による入試を実施した。	
(b)全学部学科で「女子奨学金給付型の総合選抜入試」を実施する。入学後は、女子学生のキャリア形成支援プログラムを開発・実施する。	(b)全学部において、女子学生を対象とした給付型奨学金を支給する「総合選抜（女子奨学生）」を実施した。また、新入生の女子学生を対象としたキャリア支援プログラム「女子学生のためのキャンパスライフサポート（キャリアデザイン編）」も展開した。これらの取組は、今後も継続的に実施していく計画である。	
(c)地域の初等中等教育段階にある学校に、探究学習の支援と教科目「情報」の支援等を実施（実績：令和5年度37件）している。本学との連携協定校には、本学のプロジェクトデザイン教育とSDGs教育を実施している。今後はAI基礎・データサイエンスの基礎等の内容を含めたものとする。	(c)地域の初等中等教育に対する教育支援を継続的に実施しており、令和6年度には延べ67件（小学校：1校、中学校：10校、高校：38校）の出張講義を行った。また、高等学校における教育DXの推進を支援する「DXハイスクール応援プログラム」を実施し、高大連携事例の紹介やセミナー・ワークショップ等を通じて各校との関係構築を進めた結果、新たに7校の高等学校と連携協定を締結した。今後、PBL教育や教育評価法に関する共同研究等を実施する計画である。	
(d)本学は、全学部で社会人が授業に参加し、学生を指導し共に学ぶ「社会人共学者制度」を運用している。また情報技術教育プログラム（AIとビッグデータ、IoTとロボティクス、ICTと情報セキュリティを社会人と共に学ぶ）として、社会人のリスキングを推進しており、令和3～5年度迄の科目履修者は延べ89名である。この取組を強化し、社会人の「学びの充実」を図る。	(d)全学部において、社会人が授業に参加し学生と共に学ぶ「社会人共学者」として、県内外18企業から計39名が本学の正課授業に参画した。また、社会人が学生や教員と共に、AIやIoT等の先端情報技術を学ぶ「令和6年度情報技術教育プログラム（AIとビッグデータ、IoTとロボティクス、ICTと情報セキュリティ）」を開講し、延べ42名の社会人が受講した。今後もリカレント教育・リスキングの機会を提供し、社会人の「学びの充実」を図る。	
(e)ベトナムにあるVJIT（越日工業大学）と連携協定を結び、本学のプロジェクトデザイン教育プログラムを提供（教員養成を含む）しており、本学への編入学と大学院進学への道筋強化を図る。またスリランカ日本情報科学短期大学(LNBTI)と単位互換・連携協定を結び、令和6年度から情報工学科に3年次生3名が編入学する。今後、留学生受入の強化を図るために、英語で授業を行う国際教養理工学課程の充実を図り各専門分野で日本語と英語のバイリンガルな教育を推進する。	(e)令和6年8月には、ベトナムの越日工業大学（VJIT）において、PD Innovationに係る合同研修を実施した。また、スリランカ日本情報科学短期大学（LNBTI）との連携に基づき、同短期大学からの編入生3名を情報工学科3年次に受け入れた。さらに、国際化および留学生の学修支援の一環として、英語による授業提供を推進しており、国際教養理工学課程において5科目（PDⅠ、PDⅡ、PD Innovation、線形代数学、実践ウェルビーイング）を英語で開講した。	

大学名	金沢工業大学
-----	--------

1. 本事業対象となる学部等の状況

＜合計＞

[illegible]

大学名	金沢工業大学
-----	--------

(2)

改組内容	学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
学部学科名	情報理工学部知能情報システム学科

[illegible]

大学名	金沢工業大学
-----	--------

(3)

大学名	金沢工業大学
-----	--------

2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

[illegible]

大学名	金沢工業大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1480	1480																	
		入学者数	人	1418	1407																	
	その他の学期	入学定員	人	***	***																	
		入学者数	人	***	***																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,480	1,480																	
		入学者数(B)	人	1,418	1,407																	
		入学定員充足率 (B/A)	倍	0.96	0.95																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	5920	5920																	
		編入学定員	人	0	0																	
		在籍者数(D)	人	5969	5917																	
		編入学者数	人	7	7																	
		収容定員充足率 (D/C)	倍	1.01	1.00																	

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度
改組状況			選定－6年	選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定													
項目		単位																			
外部資金獲得額		千円	1,166,762	1,219,975	1,321,947	1,448,749	953,035	993,973													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間に於ける各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	1,236,228
本事業による助成金の額(F)	千円	2,117,500
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	1,289,166

特記事項

「1.本事業対象となる学部等の状況」における令和7年度の編入学定員0人とは、若干名を意味している。 「2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況」「3.大学（学士課程）の状況」における令和6年度、及び令和7年度の編入学定員0人とは、若干名を意味している。
--